

2013年報告書*の発表後も、関連する新たな科学的情報が開示・公表されています。

こうした新規の情報は、UNSCEARの評価結果に影響（知見の追認、知見への異議、知見の向上や、特定された研究ニーズへの対応・寄与など）を及ぼす可能性があるため、UNSCEARは以下の2段階のフォローアップ活動を進めています。

第1段階：2013年報告書の発表以降に公表された科学的情報について、報告書の内容に関連するものを体系的・継続的に把握、評価

第2段階：2013年報告書の適切な時期における更新の検討

フォローアップの結果は白書や報告書としてまとめられています。白書は2017年末までに第3報まで公表され、報告書は2021年3月に公表されています。

*「2011年東日本大震災後の原子力事故による放射線被ばくのレベルと影響」（2014年公表）

原子放射線の影響に関する国連科学委員会（UNSCEAR）は、2013年報告書の発表以降に公表された新規情報について、UNSCEARの評価結果に影響（知見の追認、知見への異議、知見の向上や、特定された研究ニーズへの対応・寄与など）を及ぼす可能性があるため、系統的に収集、評価する継続的な取組（フォローアップ）を行いました。取組の結果は、2017年末までに第3報まで公表された白書と、2021年3月に公表された2020年/2021年報告書としてまとめられています（上巻P191「国際的な評価の変遷」）。

各白書では、新たな科学的情報について、「2013年報告書の結論に実質的な影響を与えるか」又は「2013年報告書で特定された研究ニーズに対応するか」ということについての公正な分析が記述され、2012年10月以降、3つの白書をあわせて300編以上の文献がレビューされています。

主題領域には、以下が含まれています。

- 大気中及び水域への放出と拡散
- 陸域及び淡水域環境における放射性核種の移行（2016年白書で新たに追加）
- 公衆と作業者の線量評価
- 作業者と公衆の健康影響
- ヒト以外の生物相における線量と影響

出典

- UNSCEAR「Fukushima 2015 White Paper」
https://www.unscear.org/unscear/uploads/documents/publications/UNSCEAR_2015_WP.pdf
- UNSCEAR「Fukushima 2016 White Paper」
https://www.unscear.org/unscear/uploads/documents/publications/UNSCEAR_2016_WP.pdf
- UNSCEAR「Fukushima 2017 White Paper」
https://www.unscear.org/unscear/uploads/documents/publications/UNSCEAR_2017_WP.pdf
- UNSCEAR「Fukushima 2020 report」
https://www.unscear.org/unscear/uploads/documents/publications/UNSCEAR_2020_21_Annex-B-CORR.pdf

本資料への収録日：2017年3月31日

改訂日：2024年3月31日